

I事業の概要

通常評価

I-1事業の概要

事務事業名 ホーム・シアトルズ	南部資源リサイクルセンター運営	所管局部課等	環境政策局適正処理施設部施設管理課
		(連絡先)	212-9820
		(評価票作成者)	施設管理課長 山本 孝

22決算額 (千円)		23予算額 (千円)		今後の方向性			24予算額 (千円)		目標達成度評価	
133,303		135,081		現状のまゝ継続			139,061		指標：再資源化量（南部リサイクルセンターのみ）	
									かなり悪い 悪い 普通 良い かなり	
業務運営方法		☐ 直営		委託(補助)先の名称、委託(補助)の内容						
		☐ 部分委託		委託先：社会福祉法人京都国際社会福祉協力会 委託内容：空き缶・空きびん・ペットボトルの中間処理						
		☐ 部分補助等								
		☒ 全部委託								
		☐ 全部補助等								
実施根拠 (法令、条例、規則、要綱等)		容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律 京都市循環型社会推進基本計画（2009－2020）							事務事業の性格	
									☒ 義務的事業 ☐ 任意的事業	
開始時期		平成 11		年度 終了(予定)時期 平成			年度		類型	
									1 1 その他	
開始時期		平成 11		年度 終了(予定)時期 平成			年度		会計区分	
									☒ 一般会計 ☐ 特別会計	

事業概要	対 象	(誰を、何を) 市民が排出する空き缶・空きびん・ペットボトル
	活 動 内 容	(どのような手段で) 社会福祉法人による運営のもと、知的障害者の就業を支援するための福祉工場として、週1回家庭から分別収集された空き缶・空きびん・ペットボトルを適正にリサイクルするための、中間処理(異物除去、選別及び圧縮)を行う。
	目 的	(どのような状態にしたいのか) 本市が市民から収集した空き缶・空きびん・ペットボトルのリサイクルに向けた適正かつ効率的な中間処理。

I-2投入量

年間経費等推移 (千円)	No.	区分	H20年度決算	H21年度決算	H22年度決算	H23年度予算	H24年度予算
	①	事業費(千円)	132,220	131,416	133,303	135,081	139,061
		需用費	100				
	①'	委託料 資源ごみ選別・資源化業務委託	132,120	131,416	133,303	135,081	139,061
	②	委託料が事業費に占める割合(①'÷①)(%)	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	③	人件費(24年度は見込)(千円)	12,300	12,095	10,352	10,352	7,028
		職員(課長級)(人)	0.17	0.17	0.15	0.15	0.08
		職員(課長補佐級、係長級)(人)	0.53	0.53	0.30	0.30	0.39
		職員(係員)(人)	0.54	0.54	0.68	0.68	0.26
		嘱託職員等人件費(千円)					
	④	年間経費(①+③)(千円)	144,520	143,511	143,655	145,433	146,089
	⑤	特定財源(市税等の一般財源以外)(千円)	135,941	84,977	190,540	122,693	188,861
		国庫・府支出金(千円)					
		受益者負担分(使用料、手数料等)(千円)					
		その他(資源物売却収入等)(千円)	135,941	84,977	190,540	122,693	188,861
	⑥	京都市年間負担経費(④-⑤)(千円)	8,579	58,534	▲46,885	22,740	▲42,772
	⑦	受益者負担率(受益者負担分÷④)(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

Ⅱ 評価結果

事業名 南部資源リサイクルセンター運営

Ⅱ-2 業績評価（Ⅱ-1 市民と行政の役割分担評価は「通常評価」のため省略）

A 目標達成度	指標名		区分	単位	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
指標 1	再資源化量（南部リサイクルセンターのみ）		目標値 …①	t	5,659	5,659	4,500	4,360	3,860
			実績値 …②	t	4,361	3,863	3,784		
			目標達成度（②÷①）	%	77.1%	68.3%	84.1%		
	指標の種類	増加することが良いとされる指標		評価	普通	普通	良い		
指標 2			目標値 …①						
			実績値 …②						
			目標達成度（②÷①）	%					
	指標の種類			評価					
				総合評価					

指標の選択理由				目標値設定の考え方			
指標1	事業の目的である3R社会の構築に向けて、市民の関心を高めるため、再資源化量を指標とする。			中間処理施設として、最大限のリサイクルを行う必要がある。一方、収集する資源ごみの組成が年々変化するため、ここ3年間における再資源化量の最大値を目標値として設定する。			
指標変更の有無	☐ 有 ☒ 無	指標名		適用年度		単位	
指標2							
指標変更の有無	☐ 有 ☒ 無	指標名		適用年度		単位	
分析	<実績値の変動理由等> 空き缶・空きびん・ペットボトルのうち、主に空き缶について南部資源リサイクルセンターへの搬入量が減少したことにより再資源化量が減少した。なお、処理された量に占める残渣割合（リサイクル物等）は、平成21年度26.34%、平成22年度26.36%とほぼ横ばいである。						

B 効率性	No.	区分	単位	H20年度	H21年度	H22年度
	①	再資源化量	t	4,361	3,863	3,784
	②	年間経費（事業費及び人件費の合計額）	千円	144,520	143,511	143,655
	③	単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位	33,139	37,154	37,964
	④	単位当たり経費変動率			+12.1%	+2.2%
				評価	かなり悪くなった	悪くなった
分析	<コスト変動の理由等> 平成21年度と比べ、平成22年度の活動実績が減少したため効率性が悪くなった。 効率的な運営に努めているが、ごみの減量化により搬入される資源ごみが減少しており、その影響から再資源化量が減少したため、単位当たりの経費は上昇した。					

C 市民参加度	企画段階	☐ 高 ☐ 中 ☐ 低 ☒ 無	<現状分析、今後の方針等> 南部資源リサイクルセンターは、知的障害者の就労支援を行う福祉工場として、市民から収集した資源ごみの選別・成型・圧縮等の中間処理をする施設である。本事業は工場内での処理工程そのものであり、市民が直接的に参加する機会はないといえる。
	実施段階	☐ 高 ☐ 中 ☐ 低 ☒ 無	
	評価段階	☐ 高 ☐ 中 ☐ 低 ☒ 無	

D 市民満足度	<調査の有無> ☐ 有 ☐ 無 ☒ 該当しない		<調査結果、現状分析等>
	<調査方法>	<調査時期>	

E 環境保全及び環境負荷軽減の要素	<現状分析、今後の方針等> ☒ 環境 ☐ 関連 ☐ 一般 空き缶・空きびん・ペットボトルの中間処理を適正かつ効率的に行うことにより、リサイクルの推進及び環境負荷の軽減に努める。	
-------------------	--	--

平成23年度の実施状況	平成23年度においても、資源ごみの再資源化に向けた中間処理を適正に実施した。日本容器包装リサイクル協会の実施した品質検査においても、受入基準を十分に満足できる品質を維持していた。
-------------	---

市会・監査・外部機関等からの指摘	
------------------	--

Ⅲ 今後の方向性

現状のまま継続	(今後の方向性の理由及び具体的な内容)
	今後についても、知的障害者雇用の促進及び缶・びん・ペットボトルの再資源化を推進する必要があるため、事業を継続する。 南部資源リサイクルセンター啓発展示施設保守管理事業については、本事業と密接に関連した事業であるため、来年度から本事業と統合し、一体的に管理することとする。